# 6

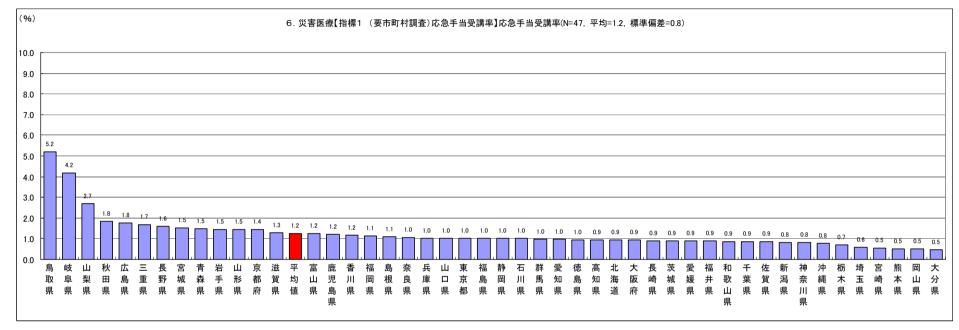
# 災害医療

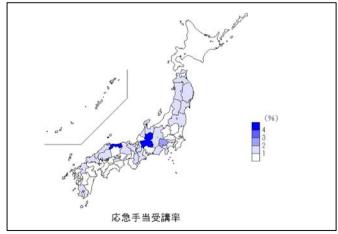
## (1)「指標」の概要

指標	指標」の概要	指標の概要
<u>番号</u>	応急手当受 講率【救急医 療2と同じ】	「どのくらい健康に留意しているか(どのくらい災害医療への関心を持っているか)」を見るための指標です。 ここでは、関心の高さを反映した指標として、応急手当講習の受講状況を取り上げています。高等学校や自動車教習所、その他民間企業などでも講習が実施されていますが、関心の高さを把握するため、自発的な受講と考えられる「都道府県、消防、市町村(学校で実施されたものを除く)、日本赤十字社」での講習の受講者を把握しています。 この指標が高いほど、地域の救急医療への関心が高いことをあらわしていると考えられます。
2	バイスタン ダーによる 心肺蘇生法 実施率【救急 医療3と同 じ】	「どのくらい健康に留意しているか(どのくらい災害医療への関心を持っているか)」を見るための指標です。 ここでは、関心の高さを反映した指標として、バイスタンダー(救急現場に居合わせた人)による心配蘇生法の実施状況を取り上げています。 この指標が高いほど、地域の救急医療への関心が高いことをあらわしていると考えられます。 分母の「救急車到着前に心肺停止した搬送者数」は把握していない都道府県もあるようです。把握されていない都道府県が多い場合は、本指標の定義の分母を地域人口に置き換える予定です。
3	医療機能情報公開率【がん5と同じ】	「どこに行ったらよいか」を見るための指標です。 病気になったときにどの病院を受診したらよいかが分かるように、医療機関の情報 が誰でもすぐに入手できることが求められます。ここでは、医療機関情報提供の度合 いを反映した指標として、都道府県や医師会等の職能団体によってインターネット上 で情報が公開されている医療機関の割合を把握します。 本指標は高いことが望ましい指標です。
4	災害拠点病 院の割合	「災害のときに、どこが医療を行うのか」を見るための指標です。 災害拠点病院とは、災害医療機関を支援する機能を有する病院で、重症・重篤な傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院として位置づけられています。厚生労働省の基準では、地域の災害拠点病院については、原則として、二次医療圏ごとに1カ所整備することとされています。 災害拠点病院等については「広域災害救急医療情報システム」(http://www.wds.emis.or.jp/wds/wdtpmainlt.asp)において把握が可能です。
5	病院耐震化率	「災害のときに、どこが医療を行うのか」を見るための指標です。 災害時にも継続して医療を提供できるよう、病院の建物は耐震化されていることが 重要です。ここでは、新耐震基準を満たす病院の割合を指標として把握します。 本指標は高いことが望ましい指標です。 「病院の地震対策に関する実態調査」報告書はWAMNETの「行政情報」-「「病院の 地震対策に関する実態調査」報告書について」から入手可能です。 (http://www.wam.go.jp/wamappl/bb13GS40.nsf/0/ebd93ce937276f41492570ad001cf9 d4/\$FILE/siryou_all.pdf)
6	DMAT (災害医療チーム) 隊員割合	「災害のときに、どこが医療を行うのか」を見るための指標です。 DMATとは、災害の急性期(概ね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門 的な訓練を受けた災害派遣医療チームで、広域医療搬送、病院支援、域内搬送、現場 活動等を主な活動としています。

### (2)「指標」の結果一覧

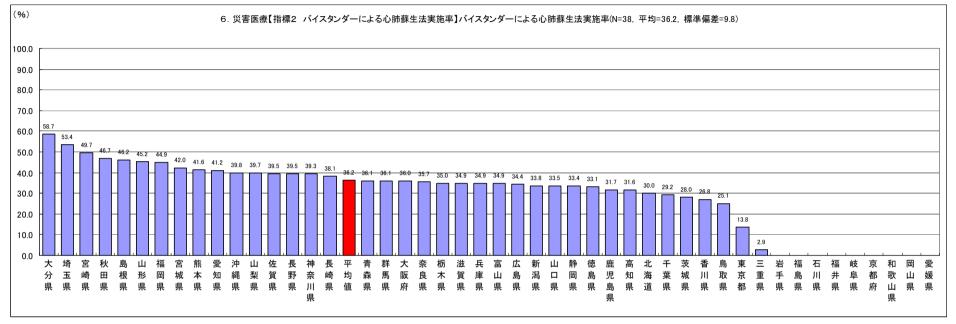
· 災害医療-1 応急手当受講率

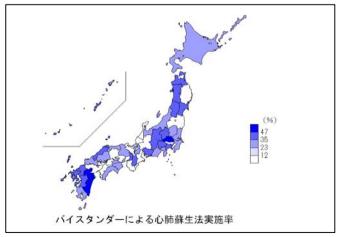




- ・ 「どのくらい健康に留意しているか (どのくらい災害医療への関心を持っているか)」 を見るための指標として用いています。
- ・ 鳥取県が最も高く、大分県が最も低い結果です。平均値は1.2、標準偏差は0.8です。
- ・ 地域的な傾向は特に見られません。

### ・ 災害医療-2 バイスタンダーによる心肺蘇生法実施率





- ・ 「どのくらい健康に留意しているか (どのくらい災害医療への関心を持っているか)」 を見るための指標として用いています。
- ・ 大分県が最も高い結果です。平均値は36.2、標準偏差は9.8です。
- ・ 地域的な傾向として、九州、関東地方が高くなっています。